

令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部
鹿児島県知事 優秀賞

「 災害の見方 」

鹿児島県 鹿児島市立坂元中学校 2年 ^{やまもと}山元 ^{まりん}麻鈴

台風や梅雨などで雨が多く降る時期。6月から8月ぐらいまでの間、雨の影響で土砂くずれなどの災害が多く発生しています。大雨がずっと続くなどの場合は、大雨警戒レベルなどの警報を気象庁が出しています。その警戒レベル3・レベル4が出たら避難するのが理想なのですが、はたしてそれは一人一人、皆が守れているのかどうなのか私は疑問に思いました。

土砂災害警戒レベルは、1から5まであります。レベル3、レベル4になると避難する人が多くなります。でも、ニュースなどで避難所が写ってもまだ災害が起きていないからなのか、避難している人が少ないように見えました。特に、高齢者の方々は多くいるものの、若い人達は避難している人が少ないように見えました。なぜ、全体的に避難していない人が多いのか、私はその理由を三つ考えてみました。

一つ目の理由は、家の近くに、川や森、崖がない家に住んでいる人が多かたりするからです。家の近くに川や森、崖がなければ、大雨が降っても、洪水、土砂くずれの危険性が低いと考えられます。そこでもし、警戒レベル3、レベル4が出ても気にしないと思います。そして避難をせずに、何か起きてからじゃないと安心する気持ちが不安にならないため、避難をしないのだと思います。私の家も近くに森はあるけれど川や崖はありません。そのため、警戒レベル3ぐらいになっても避難しませんでした。このことが避難していない人が多い一つの原因だと思います。

二つ目の理由は、警報と言って必ず災害が起こるというわけではないからです。警報が出ると言っても土砂災害だけでなく竜巻などもあります。しかし必ずしも災害が起こるというわけでもありません。警戒レベル3や4が出てもよく災害が起きないことが多いです。なので、また災害が起きないんじゃないかと勘違いをしてしまっているんじゃないかと思います。これも原因の一つだと思います。

三つ目の理由は、近所どうしなどお互いの声かけがたりてないのだと思います。私が思うには、最近若い人たちが住んでいる所と、高齢者の方々が住んでいる所とだいたいの分け目がついてきているのではと思います。それで、高齢者の方々は声かけをよくして近所どうしで協力し合うけど、若い人たちは声かけもせず、避難をしない。そういう人達が多いのではないかと思います。これも一つの原因だと思います。

高齢者の方々も、若い人たちも皆がちゃんと土砂災害にまきこまれず避難出来るようにするにはどうすればいいのか。私は二つの答えを出しました。一つ目は、近所の人たちとのつながりの輪を深めること。二つ目は、警報の意味をしっかりと考えることです。一つ目の近所の人たちとのつながりを深めることとは、近所の人たちともしも災害が起きた時どこに集合するのか、誰が誰の家に行って声をかけるのかということをし話合いです。これをする事によって、近所の人たちと話す機会が増え、近所の人たちとのつながりを深めることができます。二つ目の警報の意味を考えると、警戒レベル1、レベル2、レベル3、レベル4、レベル5のそれぞれの警戒レベルの意味を知ることです。例えば、レベル3であれば注意・警戒。レベル4であれば非常に危険などです。調べる事によって、新たな知識を身につけることもでき、さらにもし災害が起こった時に役立つため一石二鳥です。

この二つの私なりの答えでもいいとは思いますが、やはり一番良いと思うことは自分の身は自分で守るということです。一人一人がそう気持ちを持てば、避難する人が少しでも増えて安全に過ごすことができるのではないかと思います。私も、警戒レベル1からレベル5についての知識はまったくと言えるぐらいありません。なので私も調べ、災害のおそろしさを学びたいと思います。皆さんも災害について調べるだけでも災害のおそろしさを学ぶことができると思います。一人一人が自分の身は自分で守る意識を持つだけでも、災害についての意識が少しでも変わるのではないかと思います。一人一人が自分の身は自分で守るという意識を持ち、災害について考える人が増えれば少しでも避難する人が増えるのではないかと思います。